

の矛盾性を めるキリスト教学者たち (5/7) : 直性の方向

5.0

明:

近年における比 的新しい の翻 本は、そこに含まれているいくつかの矛盾点や疑 点について言及し 出してくれています。

目:[事比 宗教バイブル](#)

より: ミシュアル ブン class=

EB0 May 2011

集日 30 May 2011

では、これらの なる 版本はどこから来たのであり、また“神感による”神の言 を定 す る困 性の理由は何なののでしょうか？これらは“古代写本”に ります。 代のキリスト教 世界は、2万4千もの の“古代写本”を有します。それらは最古で西 4世 のものですが、 キリストや12使徒の 代にまで るものは、ひとつとして存在していません。言い えば、 私たちのもとには、三位一体 信奉者らが教会を支配した 代以前に る福音 は存在しな い、ということになります。この 代以前の写本は、どうい かこつ然と消え失せてし まっているのであり、 存するすべての はこれらの“古代写本”をもとに 纂されたもの なのです。 学者は皆、完全に一致する古代写本はひとつとして存在しないことも述べ ています。

今日では一般的に、ひとつの 、そしてひとつの版本しか存在しないと信じられていま すが、この は とは程 いものです。 存するすべての (キング ジェ ムス 定、新改 、新 国 など) は、これらの中のひとつとして、 定的典 とはなり得ない 々な写本からの に渡る、いわゆるカットアンドペ スト(切り取り り付け) 作 による 物なのです。そこ には、一方の“古代写本”には特定の章句が存在するが、もう一方には全く存在しな いといったケ スが数えきれないほどあります。たとえば、マルコ16:8 20の12 は、 存す

る古代写本の大半（シナイ写本、バチカン写本、そしてアルメニア版）において 出すことは出来ませんが、より近代の“古代写本”において て取ることの出来るものです。また、古代写本同士で地理的名称が完全に なるという も多く残っています。たとえば

“サマリア五 ”の申命 27:4では“ゲリジム山”について りますが、“ヘブライ 写本”では、その全く同じ が“エバル山”となっています。申命 27:12 13においてはそれらは二つの なる 所であることが明 されています。同 にくつかのルカ4:44の“古代写本”では、“ユダのシナゴ グ”について言及しますが、他では“ガリラヤのシナゴ グ”となっています。これはほんの一部の例であり、すべて 述するとなると 籍が丸一 分必要になります。

また、 には疑わしい性 の 々が数えきれないほど存在します。それらの信 性に する学者や翻 者らによる深刻な 念に して、 者への注意 きの はまったくありません。キリスト教徒の 半数の手もとにあるキング ジェ ムス 定（ ）として知られるものは、この点に して最も 名高いものです。それは 者に し、疑わしい性 を有する 々については完全に伏せてしまっていますが、近年の 翻 本に しては徐々にこの について 直になって来ています。たとえばオックスフォード出版による新改 では、疑わしい の 所を二重角括弧（ ）によって むという非常に巧妙な手法を用いています。一般の 者がそれらの括弧の役割に 付くことはほとんどないでしょう。それらは、知 のある 者に して当 する の疑 性が非常に高いことを告げ知らせるものです。その一例として、ヨハネ8:1 11の“ 通の女”や、マルコ16:9 20の“主イエスの 活”、またはルカ23:34（ 味深いことに、そこではイザヤ53:1 2の 言を します）などが げられます。

たとえばヨハネ8:1 11では、そのペ ジの一番下に、非常に小さな文字で以下のような注者による解 がされています：

“7.53?8.11????????????????????????????????7.36????21.25????21.38
??”

マルコ16:9 20においては奇妙なことに、いかにしてマルコによる福音 が完 して欲しいかという 肢が私たちに与えられています。注 者は“短い 末”と“ い 末”を用意してい

るのです。それゆえ私たちは“神感による神の言”にし、自分の望むものをぶことが出来るのです。そして再び注者は、この福音の最に非常に小さな文字でこうしているのです：

“一部の最古の典は第8によってします。の典ではそれより早くし、またのものは早い末と共に第9 20にきます。大半の典においては、9 20は第8の直にきますが、一部の典においてはそのくだりは疑わしいものとされています。”

「ピケの注」ではこうされています：

“9?20
??
????????????????10???ap.Eus.HE III, xxxix,
15?”

“マルコのアルメニアは比的近年にされており、そこではマルコの部12の著者としてキリスト教最初期における威者の一人として知られるアリストンにされており、この承は正しい可能性が大いにあります。”

F. ケニヨン「Our Bible and the Ancient Manuscripts」（と古代写本）78ページ、Eyre and Spottiswoode社

もしそうだとした場合、これらの々はなる“数の典”から、なる承がき出されています。たとえば第14は以下の言が“古代の典”において追加されている、と注者により主されています：

“そして彼らは次のように自分たちの正当性を弁解した：「この法と不信仰の代はサタンによって支配されており、かれは精による不さから真と神の御力がまることをよしとしません。それゆえ、今この瞬からであるようめるのです。」それで彼らはキリストにし、キリストは彼らにこう答えた：「サタンの支配する年月は完了したが、の苦が近付いて来ている。私を死に至らしめた罪人たちでも、真へ立ちり悔い改めれば、正という、天国にある的で不の光をち取ることが出来るのである。」”

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2625>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。